

30日、モルドバ・ウクライナ国境(パランカ村)の確定作業完了

A. 主な動き

1. 内政

AEIの動き

- ・24日、ラザル副首相兼経済相(民主党)は、フィラト首相(自由民主党党首)が内閣において独裁者のように振る舞っている旨非難。これに対し、25日、フィラト首相は、内閣の業務内容に賛同できない閣僚は辞任するべきである旨反論。
- ・27日、エフリム法務相(自由民主党)は、ブラホドニク議会第一副議長(民主党副党首)の法制度改革国家委員会副委員長への任命撤回を再度要求。
- ・27日、ルプ大統領代行(民主党党首)は、フィラト首相の参加が得られないため、27日に予定されていたAEI評議会の開催を延期する旨発言。30日、民主党は、対話に復帰するよう自由民主党に呼び掛け。
- ・28日、ストリレツ自由民主党議会会派代表は、国内の経済及び社会制度改革を妨害している旨民主党を非難。29日、ルプ大統領代行は、自由民主党による民主党に対する攻撃は地方における連合結成を遅らせるための方策である旨反論。
- ・30日、ゴーチャ元自由民主党第一副党首は、フィラト首相及びブラホドニク議会第一副議長の対立は深刻であるとし、両者の汚職問題を調査するため法執行機関の介入が必要である旨発言。

共産党の動き

- ・25日、共産党は、党中央委員会を開催。ヴォローニン共産党党首は、地方選挙の結果に満足している旨の声明を発表。ドドン前第一副首相兼経済・貿易相(共産党)は、選挙により共産党は政権復帰のチャンスを得たが、そのためには党のイメージを改善する必要がある旨発言。
- ・29日、共産党は、今会期の議会の活動は全く成果をもたらしていない無益なものであるとし、議会幹部の辞任を要求する声明を発表。

キシナウ市長選挙決選投票結果に関する動き

- ・30日、キシナウ控訴裁判所は、キシナウ市長選挙におけるキルトアケ候補の勝利認定を不服とする共産党の控訴に関する公聴会を突如延期。

キシナウ市議会選挙結果に関する動き

- ・29日、最高裁判所は、キシナウ市議会選挙の票数え直しの決定を不服とする共産党の訴えを棄却、票数え直し実施を命令する決定を妥当と判決。
- ・30日、中央選挙管理委員会は、キシナウ市議会選挙の票数

え直しを実施。同日、中央選挙管理委員会は、各党の議席獲得数に変化はない旨票数え直し結果を発表。

2. 経済

マクロ経済

- ・25日、国家統計局は、第1四半期におけるモルドバ国民の平均収入を前年比10.6%増の1,352レイと発表。
- ・28日、国家統計局は、5月のインフレ率は前年同月比7%と発表。

財政

- ・30日、財務省は、砂糖に対する付加価値税の現行8%から20%への引き上げ、タバコ、リカー類、自動車に対する物品税の引き上げ等の提案を含む2012～2014年の中期予算計画書を内閣に提出。
- ・30日、ミルゾエフIMFモルドバ常駐代表は、IMFとの合意に基づいた、砂糖に対する付加価値税引き上げに対して反対運動が発生していることに関し、現時点ではモルドバ政府との合意事項を変更する予定は無い旨発言。

対モルドバ支援

- ・28日、EUは、東方パートナーシップの枠組みにおいて、2012～2013年の間にモルドバの地域開発活動のために700万ユーロを計上する旨決定。

3. 外政

- ▼28日、レアンカ外務・欧州統合相のハンガリー訪問
・レアンカ外務・欧州統合相は、国際会議「欧州に向かう東方パートナーシップ諸国:民主主義と人権分野における成功と失敗」に参加、モルドバはEU加盟を視野に入れつつ旧ソ連国家から欧州国家への脱却を目指している旨発言。
- ・レアンカ外務・欧州統合相は、マルトニ・ハンガリー外相、バラミゼ・グルジア副首相兼欧州・大西洋統合相と会談。
- ▼29～30日、ルプ大統領代行のモンテネグロ訪問
・ルプ大統領代行は、モルドバが南東欧地域の地域協力を注目しており、特にエネルギー、運輸、インフラ、起業家間の自由競争は包括的FTA創設の鍵となる旨発言。
- ・ルプ大統領代行は、ステイエバン・メシッチ元クロアチア大統領と会談。メシッチ元大統領はモルドバの欧州統合及び経済協力への支援を表明。
- ▼30日、パランカ村付近におけるウクライナ・モルドバ国境の確定
・6月14～15日に行われた第41回ウクライナ・モルドバ国境確定委員会会合の結果、双方は国境標識の設置場所を

定めた文書に30日付で署名。これにより、国境に関する1999年8月18日付ウクライナ・モルドバ共和国合意追加覚書の履行が完了。

・1日、パランカ村の住民200人以上が、右決定に反対する抗議活動を実施。

4 . 沿ドニエストル

・26日、グバレフ露外務省特使は、モスクワで行われた非公式協議は、「5 + 2」者公式交渉の事実上の再開ともいえる旨発言。

・28日、沿ドニエストル「外務省」は、専門家作業部会の業務に関し、モルドバ政府の立場の率直かつ明確な説明を要求する親書を発出。これに関し、29日、ヤストレプチャク沿ドニエストル「外相」は、沿ドニエストルを通過する鉄道再開に向けた解決策を有しており、モルドバ政府の具体的行動を注視

している旨発言。

・29日、沿ドニエストル「最高会議」は、定員43名のうち31名の賛成をもって憲法改正案を最終読会で採択。同改正は「内閣」及び「首相」のポストを導入し、「大統領」任期を2期までに制限すること等を規定。

・1日、ポポフ外務・欧州統合次官は、OSCE安全保障総括会合にて、沿ドニエストル地域からの露軍撤退の必要性を指摘する旨の声明を発表。

5 . 防衛

ピース・シールド2011

・27日、「ピース・シールド2011」が開始。本演習はNATO主導の平和維持任務に対する軍の実施能力適合評価が主眼。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。
(了)